

長崎ウエスレヤン大学 2010 年度 事業報告

I 大学中期経営目標の達成状況

1. 大学中期経営目標の達成状況

計画期間;2007(平成 19)年～2011(平成 23)年度の 5 ヶ年

経費の節減・内部統制に努めるとともに、学生募集力の強化により経営定員を確保し、将来展望を拓くため、資金量の拡大を図る。

【中期経営目標】

年度	財務		学生募集	
	年次目標	達成度	年次目標	達成度
2007	減価償却前 消費収支差額黒字	達成	プラス 15 人作戦	達成
2008	減価償却前 消費収支差額黒字	達成	入学者 125 人の見通し	ほぼ 達成
2009	帰属収支差額黒字 →△55,230 千円	未達	入学者 140 人以上が必要 →入学者数 140 人	ほぼ 達成
2010	帰属収支差額黒字 →△134,451 千円	未達	入学者数 150 人以上が必要 →入学者数 116 人	対目標 77.0%
2011	消費収支差額黒字		入学定員充足を達成 →入学者数 120 人	対目標 75.0%

2. 中期経営目標を実現するための 5 ヶ年の全学的な目標

- 学生募集力を強化し、入学定員を充足する。
- 学生募集力強化のため、大学の認知度をアップする。
- キャリア支援としての魅力ある教育研究プログラムを充実・強化する。
- 「めんどろみの良さ」の質を維持・向上するため、教育力／学習支援力のスキルアップに組織的に取り組む。

特に、学生募集力の強化にあたっては、日本人学生を倍増し、学部留学生の適正規模化を図るとともに、新たなマーケットとして今後、拡大が期待される社会人の学び直しについて、積極的に対応できるよう、教育プログラムの開発に、年次的に取り組む。

3. 中期経営計画に対する私学事業団による中間評価

引き続き、支出の抑制に努め、資金量の減少の食い止めに取り組んだが、学納金収入が減少したため、帰属収支差額は△134,451 千円となった。

中期経営計画は日本私立学校振興・共済事業団の私立大学等経常費補助金特別補助「未来経営戦略推進経費」として採択されたものである。2007 年度～2011 年度の 5 ヶ年、毎年 1,000 万円程度交付。2010 年度は進捗状況について中間評価が行われ、次のような評価を得た。

評価結果:「 C 計画は概ね実行されているが、実施手順等について更なる工夫を行うことで、成果が見込まれる」

評価にあたっての理由、意見等:「全学を挙げて、問題意識を持って一連の施策に取り組んでいることは認められるが、入学者数の回復に至っておらず、目標の達成見込みについても根拠が乏しい。経営改善に向けた意思統一・浸透を図り、学生確保、収支改善に努められたい」

II. 教育研究分野

1. 重点施策① 収容定員確保に向けた学生募集活動の国際的展開

● 国際交流学科の学科名称変更

学科の人材養成目的と学習到達目標をより明確に表すことができるよう、国際交流学科の学科名称を「外国語学科」に変更するため、2010年4月に文部科学省へ学科名称の変更に伴う学則変更届出を行った。2011年4月1日より、学科名称が変更された。

● 社会福祉学科医療福祉コースの新設

近年社会的ニーズが高まりつつある医療と福祉をつなぐ新たな専門スタッフとしての「医療ソーシャルワーカー」を養成するため、社会福祉学科に「医療福祉コース」を本年4月に設置することとなった。

医療ソーシャルワーカーの養成に特化した教育課程としては県内初の「医療福祉コース」であり、医療事務職にも対応できる人材の養成は、地元の医療機関や医療社会事業協会などからの期待も大きい。

医療機関への就職に直結したコース運営によって、進学校の中位クラスの生徒層の募集開拓をめざし、学科の学生増とイメージの向上をはかる。

● 秋期入学制度の導入と多様な留学生受入プログラムの展開

昨年に引き続き国際交流プログラムの安定的な質的・量的確保のため、秋期入学制度を導入するとともに、海外提携校の更なる開発を行った。

2010年度に新規で協定を締結した大学は、天津工業大学、暨南（きなん）大学、三明学院、越秀外国語学院の4大学となった。新規の締結校中、2010年度に受け入れた留学生数は7名であった。

また、交流協定校のうち新しいプログラムの覚書を締結した大学は、台湾の長栄大学、天津師範大学、天津師範津沽学院の3校で、2重学位プログラム、短期留学（1年、半年）の新しいプログラムを締結した。現在、協定締結交渉中の大学は、4校となっている。

この結果、2010年度秋期入学者は、以下の通りとなった。

<2010年度秋期入学者数>

1年次	11人
うち協定による短期留学生	2人
3年次編入	6人
うち二重学位制度留学生	5人
学部生計	17人
日本語教育プログラム生	9人
合計	26人

この他、3月に行われた広州、シンセン地区海外の留学フェアにも積極的に参加し、新規のエージェントや大学の開拓に努めた。

又、3月には交換留学先である韓国仁徳大学への短期研修旅行を実施した。約8名の学生が参加した。

2. 重点施策② 留学生の就学支援環境の整備

● 留学生センターへの専門職員の配置

留学生を対象とした募集活動と学生生活支援の強化のため、留学生センターに専門職員(中国留学・就業経験有)を1人増員し、サービスの向上に努めた。

中国現地での留学説明会への参加、協定校の新規開拓、二重学位制度などの新たな交流プログラムの開発に努めた。

また、留学生のアルバイト先の確保に努めるとともに、卒業後の就職先を確保するため、中国現地企業による説明会の本学開催などキャリア支援にも努めた。

● 留学生学習奨励奨学費の創設

留学生の学習動機を高めるため、1年生を対象に、1学期の成績優秀者を対象にした学習奨励奨学費制度(月額2万円20人程度)を創設した。

3. 重点施策③ 多様な学生のエンプロイアビリティ形成のための個別支援体制の整備

文科科学省 平成21年度大学教育・学生支援推進事業(テーマB)採択事業

キャリア支援プログラムについて、標記の文科省補助事業に採択された。

補助事業名;「多様な学生のエンプロイアビリティ形成のための個別支援体制」

補助金額; 12,500千円(2010年度)

補助期間;2009年度~2011年度

2010年度の成果;

- ① 2011年度開講の基礎科目「キャリアデザイン」パイロット事業として、外部教育機関や卒業生との連携により、「就職基礎」(2年生対象・後期15回)、「就職ガイダンス」(3年生対象・前期13回後期12回)を実施した。
- ② 情報処理科目や「基礎演習Ⅰ」のなかで、eポートフォリオ・システムによるパイロット事業を実施した。
- ③ 10月・3月にeポートフォリオに関する研究会を開催。9月・2月に学外有識者・専門家を講師として総合的なキャリア支援プログラムの運営・全学実施にむけたワークショップ形式による全学FD・SD研修を実施した。この他、キャリア支援、eラーニングに関する職員派遣研修を行った。
- ④ 前年度に続き、同志社大学高等教育・学生研究センター開発のJCIRP2010を実施。授業評価の結果データとともに分析を行った。また、卒業生のネットワーク形成とキャリア支援の強化のため「福祉実践研究セミナー」を開催した。並行してキャリア支援、授業改善に関する文献調査やGP等の取組み大学主催のシンポジウム等に参加した。
- ⑤ 特別な支援を必要とする学生のキャリア支援のため若者サポートステーションと連携により、対人関係困難な学生のキャリア支援を実施。外国人留学生、特に中国人留学生のための就職説明会を在上海日系企業経営者2名を招き開催し、長崎県内他大学の留学生も含め24人が参加した。
- ⑥ 本補助事業によるキャリア支援プログラム、eポートフォリオ・システムについて、大学ホームページ上に公開し、関連情報を随時発信した。
- ⑦ 卒業予定の学生の就職支援のため、10月以降3月迄、キャリアカウンセラーを2名追加、更に1月以降は、特に未内定4年生対象にハローワーク諫早との連携によりカウンセラー1名を増員した。

4. キリスト教主義人格教育関連事業報告

1) ピースアワーや学内外での様々なチャペル活動

4月～1月の学期中、毎週水曜日 10:30～11:00 にピースアワーを実施した。建学の精神や学院の歴史、留学や福祉実習等の様々な学生の活動報告の場とした。

留学やコミュニティサービスを経験した学生が立ち上げた学生グループによる活動も活発に行われた。学生啓発活動グループ「サンファンデック」は人身売買問題やHIV問題等に関心を寄せ、海外での自らの体験によって得た知見を周囲に発信する活動を行った。

国際ボランティアグループ「Smiles for Children」はカンボジアの子ども達の生活と就学を支援することを目的に活動しており、スラムの小学校やアンコール小児病院を中心とした支援活動を行っている。

2) 学生の動機付けのためのアクティビティの実施・課外活動の支援

学生の主体的参加・参画態度の動機付けやリーダーシップと母校愛を醸成するため、新入生交流会やメンタルヘルスケア、課外活動の支援、May Fiesta 等による異文化理解プログラムを実施した。

- ① 新入生交流会・・・学部新入生・交換留学生・日本語教育プログラム生を対象としてスポーツ交流会を実施。ドッジボールや学内オリエンテーリングなどを通し交流を深めた。
- ② メンタルヘルスケア・・・学生相談室にカウンセラー(非常勤)2人を配置。学生委員会のもとにメンタルヘルスケア委員会を設置し、学生相談室の利用状況、ケアの必要な学生を早期に把握し対処できるよう配慮した。
- ③ 課外活動の支援・・・学外施設使用料補助、各体育部の遠征費の補助、引率を実施。

3) <体育系部活動の主な成績>

クラブ名	大会名	結果
バレーボール部(男子)	九州大学春季バレーボールリーグ(沖縄)	3部3位
	九州大学秋季バレーボールリーグ(大分)	3部1位 2部昇格
	九州バレーボール選手権大会(福岡)	1勝1敗
	秩父宮杯全日本バレーボール大学男子選手権大会(東京)	1勝1敗
バレーボール部(女子)	九州大学春季バレーボールリーグ(鹿児島)	7部5位
	九州大学秋季バレーボールリーグ(宮崎)	7部2位(棄権チームが出た為6部昇格)
卓球部(女子)	全九州春季卓球大会(熊本)	2部5位
	全九州秋季卓球大会(福岡)	2部5位 女子シングルス9位 石原律子
	3地区(九州・中国・四国)卓球選手権大会(福岡)	石原律子2回戦進出
	全九州卓球選手権大会(佐賀)	石原律子出場

テニス部	全九州学生春季テニス選手権大会	鍋内哲朗4回戦進出
	全九州学生夏季テニス選手権大会	鍋内哲朗3回戦進出
	諫早市長杯	準優勝 鍋内哲朗
	長崎県テニス選手権大会	B級シングルス3位 岡部翔、中山大輝 ダブルス優勝 岡部・山崎組 3位 中山・種吉組
軟式野球部	Exciting Baseball トーナメント in 阿蘇	優勝
	Exciting Baseball トーナメント in 青島	4位
バドミントン部	西日本学生バドミントン選手権大会	男子シングルス 永田竜之介4回戦進出
	長崎近県バドミントン大会	男子団体優勝
	中国・四国・九州学生バドミントン選手権大会	男子シングルス 永田竜之介4回戦進出、池田翔3回戦進出、
	諫早市秋季バドミントン大会	女子団体準優勝
	長崎県学生バドミントン選手権大会	男子シングルス3位 永田竜之介、ダブルス3位永田・池田組
体操競技部	九州学生体操競技選手権大会	個人総合第9位 和田 小貴子
	諫早カップ体競技大会	個人6位、団体2位

4) キャンパスでの国際交流プログラム

- ① May Fiesta 等の異文化理解プログラム・・・May Fiesta、国際フォーラム等の異文化理解プログラムを、留学生と本学日本人学生の共同企画により実施。
- May Fiesta・・・5月16日開催。本学留学生による各国フードコートや語学教室、ゲストによる多彩なライブパフォーマンスなど。学生スタッフ60人による運営により、来場者数約300人を動員。
 - International Café・・・06年度より毎月1回開催。アメリカ、カナダ、ブラジル、タイ、フィリピン、中国、韓国、台湾、毎回、留学生の母国であるいずれかの国をテーマに異文化体験プログラムを開催。多数の高校生及び一般市民の参加を得た。
 - 留学生の祭典・・・7月24日開催。各国の留学生による歌や踊り、民族楽器の演奏といった伝統文化を披露し、一般市民も多数参加した。
 - International Talk show, Speech Contest・・・11～12月に実施。留学生を交えた異文化理解についてのフォーラム及び本学学生による英語による各種発表を県内高等学校英語担当教員により審査。
 - English Boot Camp・・・8月と2月に実施。Reading, Speaking,そして語彙を含んだ集中英語プログラム。

5) 障害学生の受入れ

障害学生の支援体制の整備に引き続き取り組んだ。特に聴覚障害学生のためのノートテイクを始めとするスタディ・サポーターの養成を行い、障害学生からの申請に応じる支援体制の整備を継続して行った。

<障害学生の在学状況>

聴覚障害学生	肢体不自由学生	その他	計
0人	3人	0人	3人

全介助学生が2人在籍中。継続して、介助支援員を学期中常時2人雇用した。

6) 退学・除籍者

10年度の退学・除籍者は39人となり、09年度より11人減少している。

39人のうち、15人が学費未納による除籍、退学者24名の内訳は、「進路変更(進学・他大学への編入)の為」11人、「修学意欲の喪失」6人、「経済上の理由」3人、その他の理由は「健康上の理由」、「福島原発事故による帰国」などであった。

		1年		2年		3年		4年		計		総計
		前期	後期									
2010	退学	2	11	1	2	2	2	1	3	6	18	24
	除籍	3	1	2	3	5	0	1	0	11	4	15
2009	退学	4	11	0	5	0	1	0	5	4	22	26
	除籍	2	3	4	2	7	1	2	1	15	7	22
2008	退学	2	7	4	10	2	0	2	5	10	22	32
	除籍	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3	3

5. オンリーワンの即戦力養成プログラムへの取組

06 年度より、学生のライフデザインに基づく総合的キャリア支援教育プロジェクトとして、全学的に取り組んでいる。2007 年度は、1・2 年次の全学教育科目を見直し、社会人基礎力を養成するため、「大学入門」「基礎演習」「コミュニティサービス」等の科目内容の見直しを行った。2008 年度は更に、基礎学力の強化に取り組み、入学者全員にプレースメントテストを実施し、一定の成績に達しない者に対して「社会人基礎学力講座」の受講を義務付けた。

2009 年度より、前述の「多様な学生のエンプロイアビリティ形成のための個別支援体制」の一環として、学生の就職活動支援、キャリア開発支援のためのプログラムを一層強化している。

2010 年度はカリキュラム改革を行い、全学教育科目を改編し、総合的なキャリア開発支援を目的として、基礎科目に必修科目「大学入門Ⅰ」「大学入門Ⅱ」「コミュニケーション・スキル」「キャリア・デザイン」を配置した。1・2 年次の段階で卒業後の進路を実現するための学習の動機づけを促すプログラムである。

1) 2010 年度卒業生の進路決定状況

- 卒業生の就職内定率 66.3%(3 月末現在) ※2009 年度末 71.7%
就職内定者 55 人
(内訳) 一般企業 40 人 福祉関係 15 人
県内 40 人 県外 15 人
※就職希望者 83 人/卒業生 114 人中
- 学科別就職内定率
社会福祉学科 61.7% 地域づくり学科 77.8% 国際交流学科 61.1%
- 福祉関係国家資格合格率 ※カッコ内は全国平均
社会福祉士 合格者数 6 人 合格率 28.6%(28.1%)
精神保健福祉士 合格者数 6 人 合格率 75.0%(58.3%)

2) 卒業生の質保証としてのキャリアアップ支援

- 公務員対策講座・・・受講希望者少数のため実施できなかった。
- 情報処理検定・・・06 年度から検定料の補助を実施。
CS 検定(ワープロ部門) 3 級 39 人合格(45 人受験)・同 2 級 5 人合格(10 名受験)
CS 検定(表計算部門) 3 級 6 人合格(24 人受験)・同 2 級 合格 0 人(2 人受験)
- 英語教育
TOEIC(IP)・・・7 月・12 月 2 回実施 受験者数:68 人(昨年度 63 人)
最高スコア:990 点、最低スコア:195 点
- 漢字検定・・・6 月・11 月 2 回実施 3 級 2 人合格(3 人受験)
準 2 級 1 人合格(10 人受験)
2 級 2 人合格(15 人受験)

3) 学びの基本は体験主義ーボランティアからインターンシップまで

- インターンシップ・プログラムの強化・・・2010年度より、地域づくり学科の授業科目として「インターンシップ」が開講された。2011年度からは、全学科目として開講される。

2010年度の参加学生は9人で、内訳は、2年生1人、3年生8人、学科別では地域づくり学科3人・国際交流学科5人、うち留学生は2人であった。

高い評価を受け自信を持つ学生や、客観的評価を受けて自身を改めて考える学生が見られ、効果は大きかった。今後も一般企業に就職を希望する学生をより多く派遣したい。また、日本企業への就職を希望する留学生についても、日本企業の考え方を理解させるため積極的に参加させたい。

	派遣者数(人)	派遣箇所数
2010	9	8
2009	15	12
2008	5	4
2007	22	20

- コミュニティサービスプログラム派遣状況

<コミュニティ・サービスⅠ・Ⅱ(全学年対象)>

	プログラム名	サイト名 (会場・関連機関等)	担当 教員名	活動 時期	定員 (上限)	受講数
1	福祉教育関連企画 支援プロジェクト	長崎ウエスレヤン大学・長 崎福祉教育研究会	中野伸彦	通年	8	2
2	コミュニティサービ ス・チャペル	ピースチャペル、ピースセ ンター	山城順	前期・ 後期	8	11
3	こどもの城プレイリ ーダー事業	諫早市こどもの城(諫早市 白木峰町、コスモス花宇 宙館横)	菅原良子・ 入江詩子	通年	5	9
4	メンタルフレンド・プ ログラム	諫早少年センターふれあ い学級	内村公義	前期・ 後期	若干名	6
5	夏休み陶芸教室	学内(陶芸室)	内村公義	前期	若干名	23
6	スペシャルオリンピ ックス	学内、諫早運動公園、そ の他	内村公義	前期・ 後期	8	18
7	離島活性化支援事 業	長崎県伊王島	鈴木勇次	通年	6	8
8	まちづくり応援隊	諫早市中心市街地アエル 2F「まちづくり研究室」を拠 点に市内及び周辺地域	佐藤快信・ 藤崎亮一	通年	8	8

9	日本語談話室	長崎ウエスレヤン大学内	齊藤仁志	通年	8	5
10	禁煙キャラバン隊 ー禁煙サポーター 養成講座	長崎ウエスレヤン大学、 諫早市健康福祉センター	草野洋介	通年	8	2
11	スタディサポート	長崎県立こども医療センタ ー(永昌東町)	太田勝代・ 菅原良子・ 開浩一	通年	8	4
12	学童保育支援	ほくしょうクラブ、わんぱく キッズ、西諫早クラブ	開浩一	前期	8	9
13	交流さんぽ	大学周辺	齊藤仁志	通年	8	21

<コミュニティ・サービスⅡ(3・4年対象)>

	プログラム名	サイト名(会場・関連機 関等)	担当教員 名	活動時 期	定員 (上限)	参加希望 数
1	精神保健福祉活動支援	精神保健福祉活動支 援	山口弘幸	通年	5	2

4) GPA 制度を核とした責任ある教育体制の整備

開学時より導入している GPA(Grade Point Average)制度により、全体的な学力を評価する指標として GPA を修学指導、特待生継続資格判定において活用している。

<2009 年度累積 GPA 学年別平均>

	年度	1 年	2 年	3 年	4 年
平均	2010 年	2.03	2.11	2.32	2.17
	2009 年	2.34	2.01	2.29	2.19
最高	2010 年	3.92	3.46	3.68	3.54
	2009 年	3.84	3.49	3.79	3.63
最低	2010 年	0.23	0.47	0.69	0.84
	2009 年	0.40	0.10	0.50	0.30

<学長賞・成績優秀賞>

学長賞・・・卒業時に4年間で卒業要件を全て充足し、かつ累積 GPA が 3.50 以上の上位の者、
若しくは学期毎に、20 単位以上を修得し、かつ累積 GPA が 4.0 以上の者
4 年生 1 人(累積 GPA3.54 取得単位数 134 単位)

成績優秀賞・・・学期毎に、20 単位以上を修得し、GPA が 3.50 以上の者

1 年	2 年	3 年	4 年
6 人	4 人	7 人	1 人

5) カリキュラム改革と教育力の向上への取り組み

各学科の完成年度を迎え、新たなコースの設置と教育学習到達目標を明確にするため検討を行った。検討成果は、2009 年度より講義概要の巻末に「四年間の学習のめやす」として掲載している。

経済政策学科の設置に伴い、全学教育科目を見直し、キャリア教育に対応した科目編成を行った。また、きめの細かい修学支援を行うため、e ポートフォリオを開発、導入した。

そして引き続き、基礎学力や日本語能力の不足する学生・留学生等、特別な支援を必要とする学生のための学習支援体制の強化のため、FD 研修会を開催した。

6) 図書館における学習支援機能の強化

学生図書館サポーター団体「ぶっく倶楽部」との協働により、読書環境の整備・充実に取り組んだ。基礎演習や専門演習の授業における図書館ツアー、ランチ・タイムリーディング、朝の読書活動等の活動を展開した。

また、私立大学図書館協会研究助成金に採択され、小規模大学図書館の特性を活かした学生との協働による学びのコミュニティ形成に関する事例研究を行った。

6. 国際交流関連事業報告

国	協定校名	期間	前期		後期	
			派遣 (人)	招致 (人)	派遣 (人)	招致 (人)
フィリピン	University of BAGUIO	一年		1		(1)
タイ	College of Asian Scholars	一年		2		(2)
	Phone Commercial and Technical College	一年		2		(2)
ブラジル	University Methodist of Piracicaba	一年		0		0
カナダ	University of Fraser Valley	一年	1	(1)	(1)	1(1)
	Thompson Rivers University	一年		0		0
	Bow Valley College	一年		0		0
中国	天津師範大学	一年	1	4	(1)	(4)
台湾	長榮大学	一年・半年		2		(2)
韓国	大邱大学校	一年	3	2	(3)	(2)
	慶南情報大学	半年		2		2
	慶北科学大学	一年		0		0
	仁徳大学	一年・半年		2		3
計			5	18	5	20

・前期は 5/1 付、後期は 10/1 付

・()内は継続して在籍した人数

<海外スタディツアー・コミュニティサービス派遣状況>

研修地	期間	派遣数(人)
カンボジア・タイスタディツアー	10.8.12-25	6
タイ・パヤオ CSP	10.3.3-9	10
タイ・コンケン CSP	実施せず	-
フィリピン OP (OP: Outreach Program)	実施せず	-

<留学生数(学年別・国籍別)>

	中国	韓国	タイ	スリランカ	台湾	フィリピン	ベトナム	カナダ	合計
1年生	36	8	4	0	2	1	1	2	54
うち交換	4	7	4	0	2	1	0	2	20
2年生	17	0	0	0	0	0	0	0	17
3年生	37	2	0	0	0	0	0	0	39
4年生	26	1	0	0	0	0	0	0	27
学部生計	116	11	4	0	2	1	1	2	137
日プロ履修生	22	1	0	1		0	0	0	24
合計	138	12	4	1	2	1	1	2	161

7. 地域連携関連事業報告

教育研究の実践それ自体をコミュニティサービスとして位置づけ、大学と地域社会との共生、資源の還元と循環を通して「大学の地域化」と「地域の大学化」を図るため、以下の事業を実施。

1) 公開講座の開催状況

- NICE キャンパス コーディネイト科目「地域資源の再発見と利活用」全 15 回
実施時期;2010年10月6日～2011年2月2日 毎週水曜 18:00～19:30 開催
一般市民受講者数;のべ 207 人
- 諫早市子育て支援サポーター養成講座
NP プログラム・ファンリテーター養成講座 受講者数:12 人
実施時期;2010年6月4日～6月8日
諫早市子育て支援サポーター養成講座 全 4 回
一般市民受講者数;のべ 70 人
- 経済政策学科 まちづくり工房 中心市街地活性化事業 金子哲雄氏 講演会
実施時期;2011年1月9日
一般市民受講者数;約 350 人

2) 科目等履修生の受入状況

前期・後期 計 103 名

(スピリチュアルケア概論、スピリチュアルケア技術論 I・II、スピーキング、手話、死生学特講、カレントイングリッシュ等)

スピリチュアルケアコース科目等履修生(前期 34 人・後期 39 人受講)。

※日本語教育プログラム受講生を除く。

3) 社会人の受入状況(2010年3月31日付)

1年	2年	3年	4年	計
6人	2人	1人	1人	10人

4) 受託調査・事業

調査・事業名	委託元	金額
小値賀町地域づくり推進事業	小値賀町	1,000千円
子育て支援サポーター養成講座	諫早市	1,203千円
まちづくり研究室・生涯学習室の運営	諫早市	—
大村市景観資源調査事業	大村市	1,400千円
計		3,603千円

5) まちづくり工房の運営

06年度より、諫早市との連携により、中心市街地商店街協同組合が建設した複合商業施設「アエルいさはや」内に設置の「まちづくり工房」の企画・運営を行い、教育・福祉・保健・医療等の総合的ネットワークの拠点づくりに取り組んだ。

8. 高大連携関連事業報告

福祉フォーラム等の三学科の趣旨に即した高校生のライフデザインに関するコンテストやフォーラムを開催するとともに、高校における進路指導の動向や、高校生の進路選択についての調査研究を継続して行なった。特に鎮西学院高等学校との高大連携については、継続的な教育プログラムを行った。

1) 第12回高校生福祉フォーラム

11月21日開催。参加状況;161人(うち高校生68人・高校教員19人)

高校生福祉大賞コンテストを開催。高校生10団体によるプレゼンテーションコンテストを開催。

第2部は、衆議院議員の福田衣里子さんによる講演(テーマ「今、私たちにできること、すべきこと」)及び、高校生平和大使(高校生1万人署名実行委員会)による活動報告とトークライブを開催。

2) 第8回九州地区福祉系高校教員研究セミナー

11月20日開催。文科省福祉教育に関する専門官を講師に迎え実施。九州圏内の福祉系高校教員が多数参加。介護福祉士制度の改正等、高校福祉教育の方向性について、意見交換を行った。

3) 高等学校スポーツ部活動の応援

従来の企画「ウエスレヤンカップ」において、テニス部とバレー部を対象に実施。また、夏のオープンキャンパスでも、スポーツ部対象の企画を実施した。

4) 鎮西学院高等学校との連携

高大連携教育室を設置し、学院内進学者の入学後の修学状況について、高校の先生方と連携し、報告会を実施した。

また、生徒向けオープンキャンパス 5 回、「福祉基礎講座」として 2 年生対象に「福祉基礎Ⅰ」全 10 回(受講生 28 人)、3 年生対象に「福祉基礎Ⅱ」全 18 回(受講生 26 人)を開催。この「福祉基礎講座」受講生のうち 6 人の学生が、2010 年度入試において社会福祉学科(3 人)と経済政策学科(3 人)へそれぞれ合格した。

また、保護者対象のキャンパスツアーや進学説明会を開催し、連携を深めた。

9. 学術研究の振興関連事業報告

1) 個人研究費の配分状況

2010 年度の個人研究費については、財務逼迫の折、150 千円の配分となった。

2) 共同研究費の配分状況

地域総合研究所共同研究費は採択制により配分されるが、2010 年度の採択制の共同研究費は総額 2,200 千円(うち半額相当額は事業団特別補助の交付を受けた)。

採択された研究課題は次のとおり。

研究代表者	職位	共同研究課題一覧
佐藤快信	教授	明治期における宣教師による社会開発の意義について—外海町ド・ロ神父を事例に—
齊藤仁志	講師	実践研究:ポートフォリオ、マトリックスで評価する異文化理解教育の試み
草野洋介	教授	五島地区におけるアロスタティック老化指数の生理的多型性の研究
亘明志	教授	ナショナリズム言説と民主化～日韓の比較社会学的研究を通して～
藤崎亮一	講師	島嶼部における商店街の実態調査
佐藤茂春	准教授	不完備契約理論の応用研究:法、地域、環境政策を中心として
入江詩子	准教授	S-HTP 法によるタイ都市部の子育て環境と子どもの心の発達に関する研究
裴 瑠俊	准教授	社会福祉組織におけるサービス・クオリティ向上のための効果的マネジメント手法に関する研究
金 文華	講師	障害者の就労支援に関する日中比較研究
銭坪玲子	助教	多文化共生社会の言語調整ストラテジー—日本語母語話者のフォリナー・トーク使用について
鈴木勇次	教授	高齢化社会と離島社会の維持
中野伸彦	教授	新カリキュラムに対応したソーシャルワーク実践事例の活用法に関する研究
開浩一	講師	長崎原爆被災者の被爆体験からの Posttraumatic Growth

3) 科学研究費補助金の獲得状況

2010 年度の科学研究費補助金は、研究分担金が 3 件、継続 2 件、新規採択は 0 件であった。また、2011 年度の科研費申請件数は 9 件であった。

Ⅲ. 学生募集における重点施策

2010 年度も全教職員の連帯と協働をいま一度結集し、入学定員 160 名の確保に臨んだ。

<2011 年度 4 月入学者数>

	定員	出願者		合格者		入学者		
		国内	外国人	国内	外国人	国内	外国人	合計
社会福祉 (昨年度)	50 (50)	48 (41)	0 (0)	46 (41)	0 (0)	41 (31)	0 (0)	41 (31)
経済政策 (昨年度)	70 (70)	37 (50)	5 (4)	37 (49)	5 (4)	22 (33)	4 (3)	26 (36)
外国語 (昨年度)	40 (40)	20 (10)	45 (42)	19 (10)	42 (42)	11 (7)	42 (42)	53 (49)
合計 (昨年度)	160 (160)	105 (101)	50 (46)	102 (100)	47 (46)	74 (71)	46 (45)	120 (116)

<2011 年度入学者 出身県別>

	11 年度	10 年度	09 年度	08 年度		11 年度	10 年度	09 年度	08 年度
鎮西学院高校	23	25	24	30	熊本	1	2	1	0
長崎市内	20	18	8	16	大分	0	0	0	1
諫早・大村・島原	23	17	12	13	宮崎	0	0	0	1
その他	2	5	5	1	鹿児島	0	2	1	1
県内小計	68	65	49	60	沖縄	1	0	4	3
除く鎮西学院	45	40	25	30	その他	47	57	57	3
福岡	3	0	0	2	計	120	126	112	71
佐賀	0	0	0	0	除く 鎮西学院	108	101	88	41

1. 募集活動の重点施策

高校訪問数はのべ 924 校(前年 1173 校)。特に運動部所属生徒及び顧問 への積極的な広報活動を始め、信頼感と密度の高い訪問を実施。

進学説明会は、63 カ所参加。来訪者 95 人(3 年生)のうち 12 人が出願した。

オープンキャンパスは年 3 回(5 月・7 月・8 月)実施。結果、高校生 60 名が参加、うち出願者 16 名となった。第 3 回は、医療福祉コース開設記念イベントとしてパネルディスカッションを開催。一般市民・高校生を中心に西山ホールが満員になる盛況であった。

しかし、進学校でない高校の早期進路決定、進学校の夏休みの多忙さにより動員が厳しく、今後オープンキャンパスの前倒しなどが必要である。

また、2010 年度も映画招待試写会を 2 回主催(1 月・3 月)。本学の認知度アップとともに、学科の周知に大きな力となった。動員数は計 2 回で 618 人。

2. 広報活動の重点施策

資料請求者のアップと「追い込み広報」、模試における志願者アップを重点目標とし、ホームページ上に特設ページを設けるとともにブログにより情報の積極的更新、資料請求者・受験者(一般・センター利用試験)への追い込み広報、社会福祉学科医療福祉コースのリーフレット制作、前述のオープンキャンパスのほか、流通評論家 金子哲雄氏による経済政策学科開設記念講演会等とともに、メディアへの積極的露出方策に取り組んだ。

本学 HP の今年度アクセス数は約 668,565 件、対前年比 90.2%となったが、本年 1 月センター入試以降のアクセス数は前年度を上回り、一般・センター志願者への認知度アップが伺えた。

資料請求者に関しては、特に 3 年生の場合、1 週間以内に対象高校を訪問した。2 月以降の受験者に関しては出願時に全高校を訪問、歩留まりのアップに努めた。

今年度は、TVCM をオープンキャンパス及び各試験前に放映、それと並行して新聞広告も計画的に掲載。教員・保護者及び一般市民に対して、本学のブランドイメージを植え付けることに成功した。

3. 入試の重点施策

受験生と高校教員(進路指導)のニーズに応えるため、推薦試験、特待生制度、一般入試の見直しを図った。また、「スポーツ特別選抜入試」(AO 方式)についても重点広報した。

スポーツ特別選抜入試に関しては、3 名の受験者(入学者)であった。うち卓球においては多くの大会で優秀な成績を残しており、優秀なアスリートの獲得という目的は達成された。

IV 施設・設備の整備計画

大学教育・学生支援推進事業の一環として、学内無線 LAN を全館に整備し、キャンパス全域でフリー・アクセスを可能にした。これに伴い、DNS サーバー、プロキシサーバーを整備した。また、ラーニングセンターとして小教室施設に PC を設置した。